

平成 28 年 度

川崎市下水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成28年度 下水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、平成28年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

平成28年度は、「川崎市下水道事業中期計画」に基づき、東日本大震災や近年の気候変動に起因する局地的な集中豪雨をふまえた地震・津波対策や浸水・ゲリラ豪雨対策、さらには、老朽化対策、高度処理、合流改善、地球温暖化対策など、下水道が抱える課題を解決するための様々な取組を確実に進めてまいりました。

一方、財政面では、下水道経営の健全化を図るため、事業運営の効率化に努めてきたことなどにより、当年度純利益を計上することができましたが、過去の建設投資の影響により、未だ企業債残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

(業務の状況)

平成28年度末における処理面積は1万706ha、処理人口は148万7,834人で、人口普及率は99.5%に達しています。

また、有収水量は1億4,890万780^mで、下水道使用料は税抜きで222億9,237万4,370円です。

(建設及び改良工事)

平成28年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、158億9,575万8,298円となっております。

また、64億5,000万円を平成29年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限にするため、老朽管が多く地盤の液状化による被害が懸念される川崎駅以南の地域において、重要な管きょの耐震化工事を施行したほか、丸子地区や大師河原地区など浸水リスクの高い地区での浸水被害軽減に向けた、浸水対策工事を施行しました。

ポンプ場については、老朽化の進む渡田ポンプ場の再構築に向けた建設工事を施行したほか、戸手ポンプ場などで大規模地震発生時における、揚水機能確保に向けた対策工事を施行しました。

水処理センターなどについては、入江崎水処理センター西系の再構築工事を前年に引き続き施行したほか、等々力水処理センターにおいて、高度処理化に向けた、流量調整池の建設工事を施行しました。さらに、入江崎総合スラッジセンターなどで老朽化した機械・電気設備の更新工事を施行しました。

2 平成28年度 下水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	44,989,872,000	44,843,068,561	△ 146,803,439	99.7%
資本的収入	61,111,923,000	54,184,964,870	△ 6,926,958,130	88.7%
合計	106,101,795,000	99,028,033,431	△ 7,073,761,569	93.3%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	42,860,693,000	41,421,376,731	△ 1,439,316,269	96.6%
資本的支出	78,900,001,000	71,827,718,854	△ 7,072,282,146	91.0%
合計	121,760,694,000	113,249,095,585	△ 8,511,598,415	93.0%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	44,843,068,561	41,421,376,731	3,421,691,830

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 2,582,298,746

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	54,184,964,870	71,827,718,854	△ 17,642,753,984

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 101,746,000円は除く）が資本的支出額に不足する額 17,744,499,984円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 826,028,284円、繰越工事資金 7,478,000円、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金16,910,993,700円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成28年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	2,582,298,746	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 826,028,284 ・繰越工事資金 7,478,000 ・減債積立金 0 ・当年度分損益勘定留保資金 16,079,676,479
資本的収支差額 (B)	△ 17,642,753,984	
補てん財源等 (C)	17,280,111,373	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	2,219,656,135	減価償却費 22,698,434,846 固定資産除却費 1,265,894,246 その他非現金取引 0 長期前受金戻入 △ 7,884,652,613 ・退職給付引当金 366,928,610

※単年度資金残額には翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 101,746,000円を含む。

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 27 年度 末 資 金 残 額 ※	平成 28 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 28 年 度 末 資 金 残 額
資金残額	4,133,857,485	2,219,656,135	6,353,513,620
うち退職給付 引当金	603,700,511	366,928,610	970,629,121

※前年度資金残額から、補てん財源（繰越工事資金及び減債積立金）を除いた金額。

(4) 経営成績（税抜額）

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	33,619,791,200	営 業 収 益	33,954,463,625
営 業 外 費 用	6,311,730,208	営 業 外 収 益	9,060,309,402
特 別 損 失	531,950,099	特 別 利 益	30,997,226
総 費 用	40,463,471,507	総 収 益	43,045,770,253
当年度純利益	2,582,298,746	当年度純損失	-
前年度繰越 利益剰余金	2,685,811,312	前年度繰越 欠 損 金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	0	-	-
当年度未処分 利益剰余金	5,268,110,058	当年度未処理 欠 損 金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
下 水 道 事 業 会 計	- (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成 28 年度	平成 27 年度	増△減（％）
総人口（人）	1,496,035	1,481,270	(1.0 %) 14,765
処理人口（人）	1,487,834	1,472,898	(1.0 %) 14,936
人口普及率（％）	99.5	99.4	(0.1 %) 0.10
処理面積（ha）	10,706	10,704	(0.0 %) 2
排水区域面積（ha）	10,706	10,704	(0.0 %) 2
水洗化対象件数（件）	706,638	693,766	(1.9 %) 12,872
水洗化件数（件）	703,009	690,054	(1.9 %) 12,955
水洗化助成件数（件）	44	61	(△ 27.9 %) △ 17
年間処理水量（m ³ ）	202,013,130	205,949,856	(△ 1.9 %) △ 3,936,726
1日平均処理水量 （m ³ /日）	553,460	562,705	(△ 1.6 %) △ 9,245
年間有収水量（m ³ ）	148,900,780	147,998,207	(0.6 %) 902,573
管きょ布設延長（m）	3,120,561	3,110,931	(0.3 %) 9,630
下水道使用料（円） （税抜額）	22,292,374,370	22,233,928,615	(0.3 %) 58,445,755